

8 經營比較分析表

経営比較分析表

滋賀県 大津市

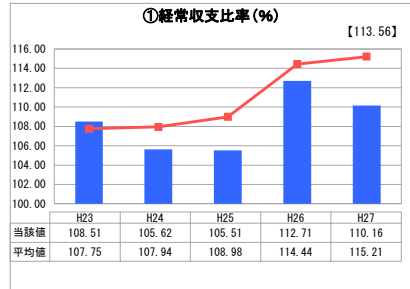
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	63.62	99.54	2,246

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
342,434	464.51	737.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
340,576	93.37	3,647.60

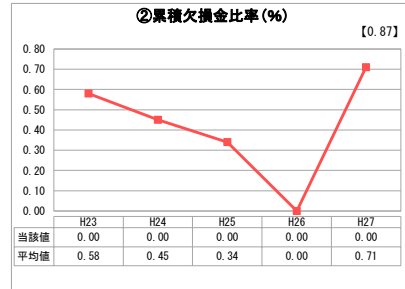
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

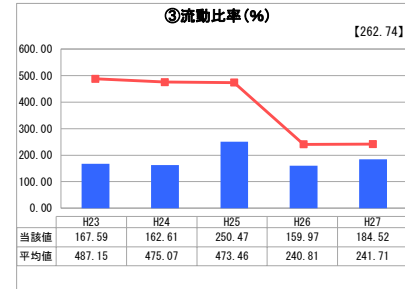
1. 経営の健全性・効率性



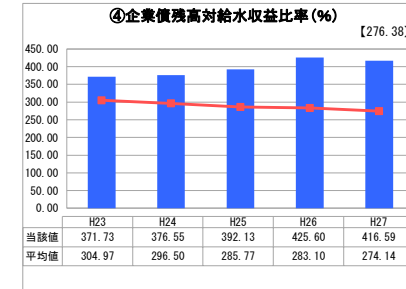
「経常損益」



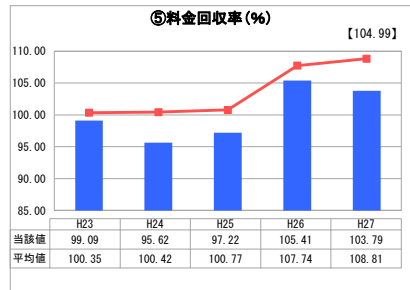
「累積欠損」



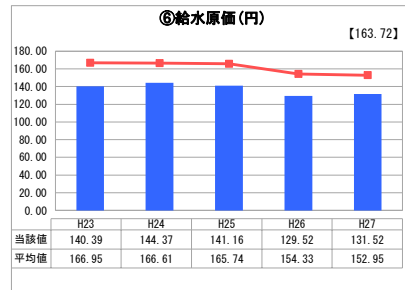
「支払能力」



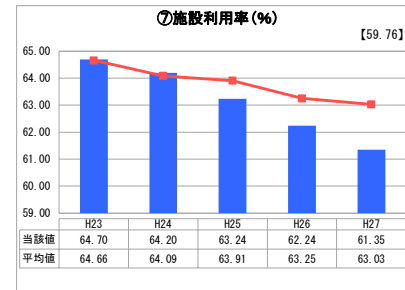
「債務残高」



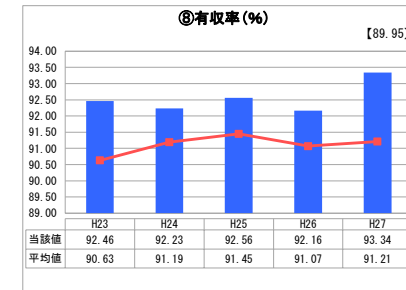
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

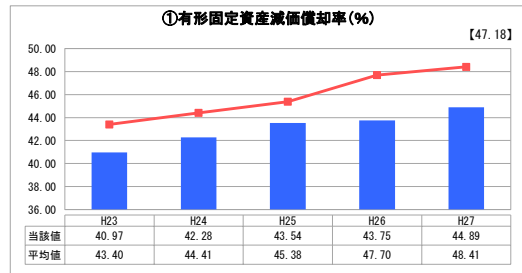


「施設の効率性」

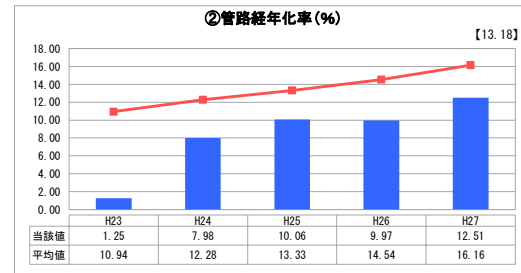


「供給した配水量の効率性」

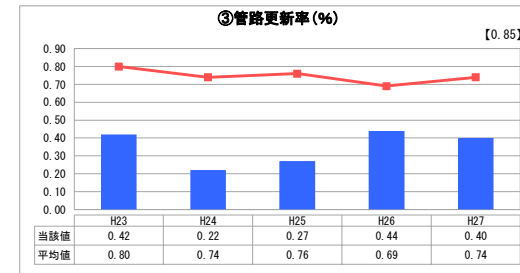
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤料金回収率の平成27年度の数値は、それぞれ100%以上となっているが、全国平均及び類似団体平均よりも小さい値となっている。④企業債残高対給水収益比率は、平成26年度までは増加傾向であったが、平成27年度では減少した。⑥給水原価は、平成26年度の会計基準の見直しにより少し低下しており、全国平均及び類似団体平均よりも低い水準となっている。⑦施設利用率については、平成23年度より減少が続いており、施設の効率性が低下しているものといえる。また、その低下の割合は類似団体平均よりも大きいものとなっている。一方で、⑧有収率は、平成23年度より、増減を繰り返しているが、全国平均及び類似団体平均よりも高い水準であることが分かる。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率については、全国平均及び類似団体平均よりは下回っているものの、ともに平成23年度より増加傾向を示しており、経年化が進行していることが分かる。一方で、③管路更新率は、全国平均及び類似団体平均よりも低い水準となっており、更新のスピードが十分でないものといえる。今後、アセットマネジメントに基づく管路更新計画により、ダウンサイジングなど効率的な管路更新を実施していく必要がある。

全体総括

1. 経営の健全性・効率性については、全国平均及び類似団体平均と比較すると、④企業債残高対給水収益比率が高いことから、企業債残高の削減が必要と考えられる。また、⑦施設利用率が平成23年度より大きく低下していることから、適正な施設規模の検討が必要である。
2. 老朽化の状況については、経年化が進行している状況において、③管路更新率が低いことから、アセットマネジメントに基づく効率的な管路更新が必要な状況である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

